

地域創生学類 卒業認定・学位授与の方針 (ディプロマ・ポリシー)

地域創生学群地域創生学類は、基盤教育による基盤力に加え、地域創生学に関する専門教育を通して、以下の能力を有すると認めた者に学士（地域創生学）の学位を授与します。

■ 豊かな「知識」

地域の再生と創造に関する専門知識を地域との関わりの中で総合的に理解している。

■ 知識を活用できる「技能」

地域の再生と創造に関する専門知識と地域活動を効果的に推進するための技術を、実践的に活用できる。

■ 次代を切り開く「思考・判断・表現力」

多面的な視野から地域が抱える問題の本質に迫り、創造的な思考と論理的な判断による解決案を、多様な他者に適切に伝えることができる。

■ 組織や社会の活動を促進する「コミュニケーション力」

地域社会の中で多様な他者との豊かな関係を築くことができ、地域の再生と創造に向けて協力的に活動を進めることができる。

■ 社会で生きる「自律的行動力」

地域創生学の学修を通じて、地域の現状に関心を持ち続けながら、地域と社会の発展に向けて自律的に行動できる力を有している。

～その基盤力として、基盤教育で次の力を身につけます～

- ・地域・環境・世界(地球)の分野を中心として、社会で生きていくための基盤となる幅広い知識を有している。
- ・英語などの基礎的運用能力、情報リテラシー、資料等を読み解く技能を身につけている。
- ・多様なものの見方、考え方、価値観などを理解し、思考・判断することができる。
- ・個人の異なる生き方や価値観を理解し、社会と調和し、組織や社会の活動を促進することができる。
- ・他者との関わりの中で自己を律し、自己のキャリア形成に向けて継続して学び、公共性、倫理性を持って行動できる。

※ 基盤力の詳細は基盤教育センターのページを参照

地域創生学類 教育課程編成・実施の方針 (カリキュラム・ポリシー)

地域創生学群地域創生学類では、卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）を実現するために、以下のとおり教育課程を編成し、実施します。

教育課程の編成

(編成の方針)

- 1 地域創生学類では、1年次から4年次にかけて地域の再生と創造に関する専門知識及び地域活動を効果的に推進するためのスキルを修得するとともに、地域の再生と創造に関心を持ち続け、地域と社会の発展に向けて行動する姿勢を身につけることを目指して、順次性、体系性のある教育課程を編成する。
- 2 教育課程には、多面的な視野から地域が抱える問題の本質に迫り、創造的・論理的に考察し、コミュニケーション力を育成しつつ、自身の考えや判断を表現できるよう、1年次から4年次に演習科目を、1年次から3年次に実習科目を配置する。
- 3 以上の専門教育科目に加え、社会で生きていくための基盤力を育成する基盤教育科目をもって地域創生学類の教育課程を編成する。

(教育課程の構成)

※()は卒業に必要な最低単位数で、卒業要件単位数124単位の内訳

地域創生学類の教育課程は、編成の方針に基づき、専門教育科目(84)と基盤教育科目(40)で構成する。

専門教育科目は、「実習科目」「演習科目」「地域創生科目」「地域創生スキル科目」「専門科目」の5つの科目群から成り、地域マネジメントコース、スポーツ・福祉コース及び地域創生夜間特別枠コースごとに順次的、体系的に編成する。各科目群の編成は次のとおりとする。

- 1)「実習科目」は、地域の中での経験を基に地域の再生と創造に寄与する力の基盤を育成することを目的とし、1年次から配置する〔地域マネジメントコース(14)、スポーツ・福祉コース(14)、地域創生夜間特別枠コース(0)〕。
- 2)「演習科目」は、地域の再生と創造に必要な実践力を高めるため、1年次から順次履修できるように配置する〔地域マネジメントコース(24)、スポーツ・福祉コース(24)、地域創生夜間特別枠コース(8)〕。
- 3)「地域創生科目」は、マネジメント、スポーツ、福祉の3領域を中心に据え、地域の再生と創造に必要とされる知識を学修するため幅広い学問分野からアプローチした科目を1年次から配置する〔地域マネジメントコース(20)、スポーツ・福祉コース(10)、地域創生夜間特別枠コース(10)〕。
- 4)「地域創生スキル科目」は、地域の再生と創造に必要とされる技術の修得を目的として、2年次から配置する〔地域マネジメントコース(12)、スポーツ・福祉コース(4)、地域創生夜間特別枠コース(4)〕。
- 5)「専門科目」は、地域の再生と創造のために必要とされるより専門的な科目で構成され、1年

次から配置する。

※ただし、スポーツ・福祉コースにおいては、「地域創生科目」、「地域創生スキル科目」、「専門科目」で合計 46 単位以上修得を、地域創生夜間特別枠コースにおいては、「実習科目」、「演習科目」、「地域創生科目」、「地域創生スキル科目」、「専門科目」で合計 84 単位以上修得することとする。

教育の内容・方法

- ・ 授業は、講義、演習、実験、実習若しくは実技のいずれかにより、又はこれらの併用により行う。
- ・ 学生が主体的に学び、協働して課題解決に取り組むとともに、学習意欲・関心を高め、生涯にわたって学び続ける力を養うため、課題解決型学習(PBL)、グループディスカッション、グループワーク、プレゼンテーションなど能動的学習(アクティブ・ラーニング)の手法を授業形態に応じて効果的に取り入れる。
- ・ 予習・復習等、授業時間外の学修について、学修行動調査などによる調査・把握を行いながら、シラバスへの内容記載や授業での喚起等により、適切な学修時間の確保を促す。
- ・ 単位の実質化を図るため、履修登録単位数の上限を各学期 26 単位とする。

学修成果の評価

- ・ 授業科目の成績評価は、試験、受講態度、並びにレポートや課題、ディスカッション、プレゼンテーションへの取組状況や成果などによって厳格に判定する。成績が一定の水準に達したと認められた場合に、所定の単位を認定する。
- ・ 地域マネジメントコースとスポーツ・福祉コースにおいては、3年次に進級するために、2年次終了まで、「地域創生科目」を 10 単位以上、及び「地域創生演習 I・II」の単位を含む合計 60 単位以上の修得を必要とする。卒業の要件は、すべてのコースにおいて所定の科目を含めた 124 単位以上の修得を必要とする。(なお、地域マネジメントコースとスポーツ・福祉コースにおいては、1年次終了までに、「地域創生科目」の必修3科目のうち2科目以上、及び「実習科目」の1年次配当科目の全ての科目の修得を満たさない場合、学群長もしくは学類長、及び当該学生が2年次から所属する地域創生演習担当教員による面談及び履修指導を行う。)
- ・ 各授業科目の成績を基礎とした総合的な学業成績として、累積 GPA を算出し、成績優秀者表彰や留学対象者の選定などに用い、学修意欲の向上を図る。
- ・ 学生への授業評価・学修行動調査等を実施し、個別科目での学生の理解度や各講義・授業への要望をはじめ、学修達成状況などを把握し、その結果を授業や教育課程の改善に役立てる。

地域創生学類 入学者受入れの方針（アドミッション・ポリシー）

地域創生学群地域創生学類は、次のような人を求めます。

（求める学生像）

- 地域社会の諸問題に強い関心を持ち、探究心を持って主体的に行動し、学修する人
- 地域社会に対する責任感と使命感を有する人

（求める能力、入学者選抜における重点評価項目） ※特に評価する項目に「○」をつけています。

		知識・技能	思考力・判断力・表現力等の能力	主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度
求める能力		<ul style="list-style-type: none"> ・情報や課題を理解するために必要な読解力や文章表現力を備えている。 ・複雑な地域課題の解決のために、特定の分野の基礎知識を身につけている。 ・地域創生を達成するために必要な卓越した技能を有している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・相手の発言の意図や求められている事を的確に理解し、それに応じるために必要な表現力を身につけている。 ・地域創生に関する講義や文章を理解し、論理的にまとめる思考力を身につけている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・地域で活動する上で必要となる他者とのコミュニケーション能力や、自ら主体的に関わりようとする意欲を持っている。 ・自らのアイデアや経験を地域創生に活かす上での明確なビジョンを持っている。
一般選抜 (前期日程)	大学入学共通テスト	○		
	個別学力検査 課題論文		○	
	個別学力検査 集団討論			○
	個別学力検査 活動・資格等実績申告書 (志望理由書 1200字以内、調査書)	○		
【地方創生推薦】 学校推薦型選抜(国推薦)	基礎学力テスト等 プレゼンテーション及び口頭試問 (事前課題、推薦書、調査書、入学希望理由書)		○	○
【活動実績推薦】 学校推薦型選抜(特別推薦)	基礎学力テスト等 口頭試問 (推薦書、活動実績に関する資料、調査書、入学希望理由書)	○	○	
総合型選抜	基礎学力テスト等 <1次選考> 集団討論 (自己推薦書、調査書)		○	
	基礎学力テスト等 <2次選考> 小論文 個別面接		○	○
社会人特別選抜	基礎学力テスト等 課題論文		○	
	基礎学力テスト等 面接 (入学希望理由書 2000字程度)			○